

第49回オープンセミナー

主催 / 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀総合研究開発センター
共催 / 国立大学法人福井大学 産学官連携本部協力会 原子力技術研究部会

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構では、研究開発を通して創出した新技術を地域企業の皆様方に活用して頂くことや、原子力分野へ幅広く参入して頂くために、機構の技術などを紹介する取組みを行っています。今回のセミナーは国立大学法人福井大学との共催で開催します。

なお、今回は Web にて開催します。

視聴
期間

2021年12月6日(月) 9:00 ~ 12月19日(日) 17:00

視聴
方法

期間中に、下記特設ページにアクセスしてください。

■ 第49回オープンセミナー

URL : <https://49th.openseminar.jp/>

ホームページ (<https://soudan.jaea.go.jp/>) から、アクセスできます。

WEB
開催

※事前申込み不要

セミナー
内容

● 血液で調べる！ DNA の傷の新しい評価手法

福井大学 学術研究院工学系部門 原子力安全工学講座 准教授 松尾 陽一郎

放射線は工業や医療、農業そしてエネルギー分野など様々な分野で利用されています。その中、放射線に携わる人々の安全管理面で、従来とは異なる「リアルタイム PCR」を用いた研究を行っております。これは新型コロナでおなじみとなった検査方法のひとつで、現在、放射線を照射した血液中の DNA 損傷と吸収線量との相関関係を評価しています。

この手法をもとに、迅速な放射線影響評価や食品照射分野への応用等、今後の進展が期待されます。

● 小型で取扱いが容易な甲状腺ヨウ素モニタ

原子力機構 原子力科学研究所 放射線管理部 放射線計測技術課 主査 西野 翔

原子力機構では、原子力事故等の緊急時に、住民や作業者の甲状腺被ばく線量を迅速に把握するために用いる甲状腺ヨウ素モニタを開発しました。卓上型・遮蔽一体型の構造を採用しており、避難所等へ持ち込み・設置が容易であるとともに、高バックグラウンド線量率下においても測定が可能です。

本講演では、開発した甲状腺ヨウ素モニタの特徴や性能に加え、医療分野への展開など社会実装へ向けた課題をご紹介します。

お問い合わせ

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

高速炉・新型炉研究開発部門 敦賀総合研究開発センター レーザー・革新技术共同研究所 成果普及促進グループ



0770-21-5033



thq_soudan@jaea.go.jp